

聖戰 24 個月 を 迎 ふ

興亞の大業を目ざして、日支事變の聖戰今や滿2年を迎へる事となつた。幸にして皇軍の武威は益々振ひ、戦果は到る處に擴大されつゝあるは感謝感激にたへざる處である。

○

然しながら聖戰目的達成の爲には、前途尙ほ幾多の難關を突破せざる可らざるは云ふまでもない。今や國內の物と人との統制は總ての方面に及び、我が土木建築の如きも最近遂に總動員法の適用を受くる事となつた。

興亞大業の建設戰士として、既に多數の技術家が、各方面に専門的動員をしてをるのであるが、今後更に一層その強化の必要なるは當然の事であつて之は我國技術家の名譽として此上もない機會を與へられたものと云へる。

○

本年度に於て政府は、更に百億圓の貯蓄を目標にして、國民に一大決心と協力を促した。而してその60億圓は戦費に、40億圓は文化工作の産業建設費に充てられるものである。規模の大なる事、まことに新東亞建設の大業と云ふべきである。數年前までは持たざる國の日本が、今や持てる國と雖も成し能はざる此等の大業を成し就ぐべく、舉國協力其目的達成に努力してをるのである。而して此の大業の大部分は我が工業技術に課せられた資源の一大運用である。而して此の舉國の精神と努力とは、數十年後の大亞細亞の文明を知るに足るものと言へよう。

○

而して今や産業建設の工事は到る處に大規模に計劃され、水力、港灣、河川、道路、都市、鐵道等内地大陸ともに一大發展の途上にある。

將に其多忙なる事、工事國日本の前夜と云ふべきである。

昭和14年7月 工事畫報社 同人

久 須 美 中 尉 近 信

工事畫報社同人久須美雄二主計中尉、中支派遣軍伊藤部隊山田部隊廻間隊に在り、4月上旬、一發必殺の奮戦を以て敵襲を拂ひ、大行李の任を果す。近信を次に

(前略) 其後戦況上音信の便なく不本意ながら數ヶ月は打過ぎ候御庇護に依り益々頑健堅固に奉公罷在候扱て近況に至つて愚作なれど御稿正願上候

降魔劍將成聖業
殘敵掃蕩似追蠅

既染征衣硝煙香
誓滅此虜見故山

巳卯初夏

於南昌 雄 二